

ソ連新体制

専門家に聞く

(順不同)

民主的政治運営への信念・哲学に期待

東京外国語大学教授 中嶋 嶺雄氏



ついにゴルバチョフ大統領が実現し、ソ連における共産党一党独裁体制の歴史的变化とともに、ソ連の政治指導方式と政治システムが根本的に変わった歴史的な決定である。

ペレストロイカは、ソ連社会に大きな希望をもたらしている半面、改革の進展が暗礁に乗り上げてしまいかもしれないという状況に直面していた。



痛み伴う経済改革に どう指導力を発揮

日本大学教授 佐藤 経明氏

ゴルバチョフの大統領選出に当たっては、強い

で、かつ性急な手続きが印象的だが、これは同氏が一種の危機管理型大統領になることを予想させる。ソ連の国内経済が良くないうえに、リトアニア問題、急進展をみせるドイツ統一の動きなど、今後大きな決断を

ゴルバチョフ大統領個人に権力が集中したという側面はあるけれども、ゴルバチョフ大統領は民主的政治運営への信念と哲学を持っており、従来の独裁者とは根本的に異なっている。

東欧やモンゴルなど社会主義国の変化が急速であり、いよいよ、このインパクト(衝撃)が中国に及ぶことになるのではないか。

(談)

迫られる問題が目白押しで、それに先手を打ったわけだ。

経済問題では、改革派で市場経済導入に積極的なペトロコフ氏を書記長の経済政策担当補佐官に据えるなど、ゴルバチョフ氏は大統領就任後をにらんで着々と布石を打っている。経済改革は国民の痛みを伴うが、それなくしては現在の危機は克服できない。これに対し、炭鉱労働者がストを打つなど労働不安も予想されるが、新大統領がどのような指導力を発揮していくか。

所有権法や土地法を採択し、ゴルバチョフ政権にとって今年には経済再建のまさに正念場といえる。